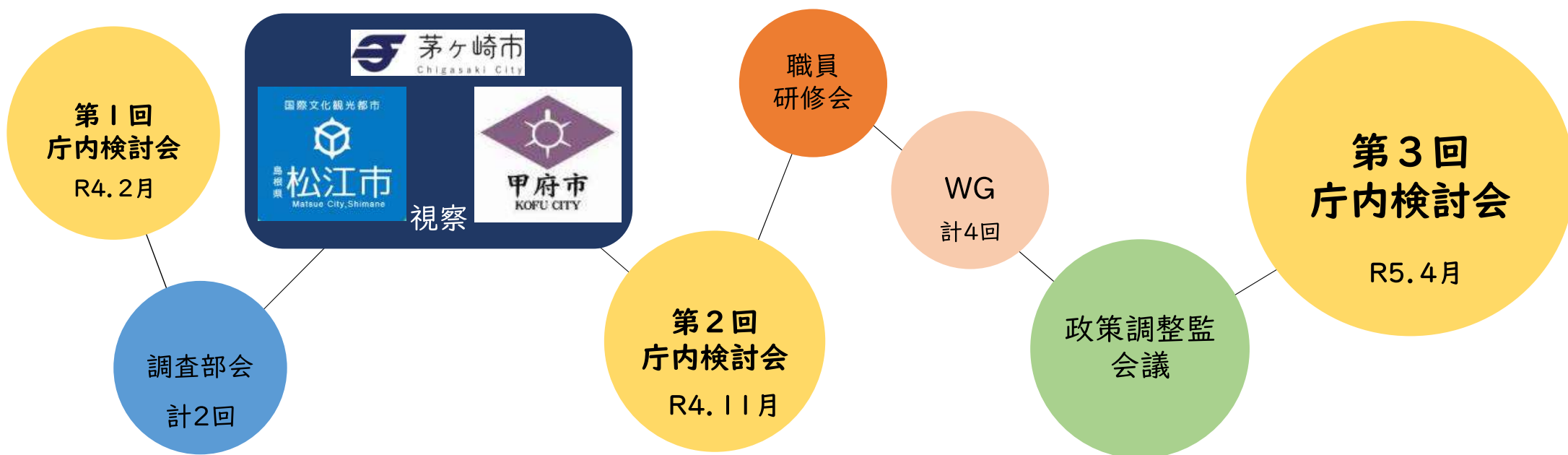


中核市に関する庁内検討会 第3回

令和5年4月4日(火)

政策推進部 行政マネジメント課

これまでの調査・検討の流れ



	庁内検討会 (経営戦略会議)
委員長	市長
副委員長	副市長
委員	教育長、部長 その他市長が指名する者
事務局	行政マネジメント課

調査部会	
部会長	政策推進部副部長
部会員	移行に関連する課の課長等
事務局	行政マネジメント課

- ・庁内検討会に調査部会を置く。
- ・調査部会は効果、課題を調査・研究し検討会へ報告する。

第2回庁内検討会で出た意見等 (抜粋加工)

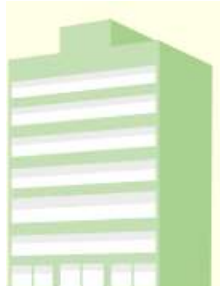
- ◎中核市に移行したら、ビフォー・アフターで、どういう変化が生じるのか。
佐賀市の将来にどういう違った将来像があるのか。
翻訳していく、市民目線で、見せていく。
- ◎行政職員は日々たくさんの業務や期限に追われている。
しかし、こういう大きなテーマというのは日々の業務とは違い、5年後10年後の佐賀市の将来に大きく影響するようなスパンの話
- ◎担当の課の業務に精通している職員も、将来どういう姿を目指していくのか一緒に考えてほしい。
- ◎国は、先行行自治体や、きらりと光る自治体を応援して、そしてまたそれをほかの自治体も参考にしながら、そして、それぞれの自治体で特徴が違う、いろんな環境が違うという中で、の独自性を磨いていく。そういう時代に来ている。

目 次

- 1 振り返り
- 2 先行市 | 中核市で目指す都市像
- 3 佐賀市 | 中核市で目指す将来像
- 4 検討課題

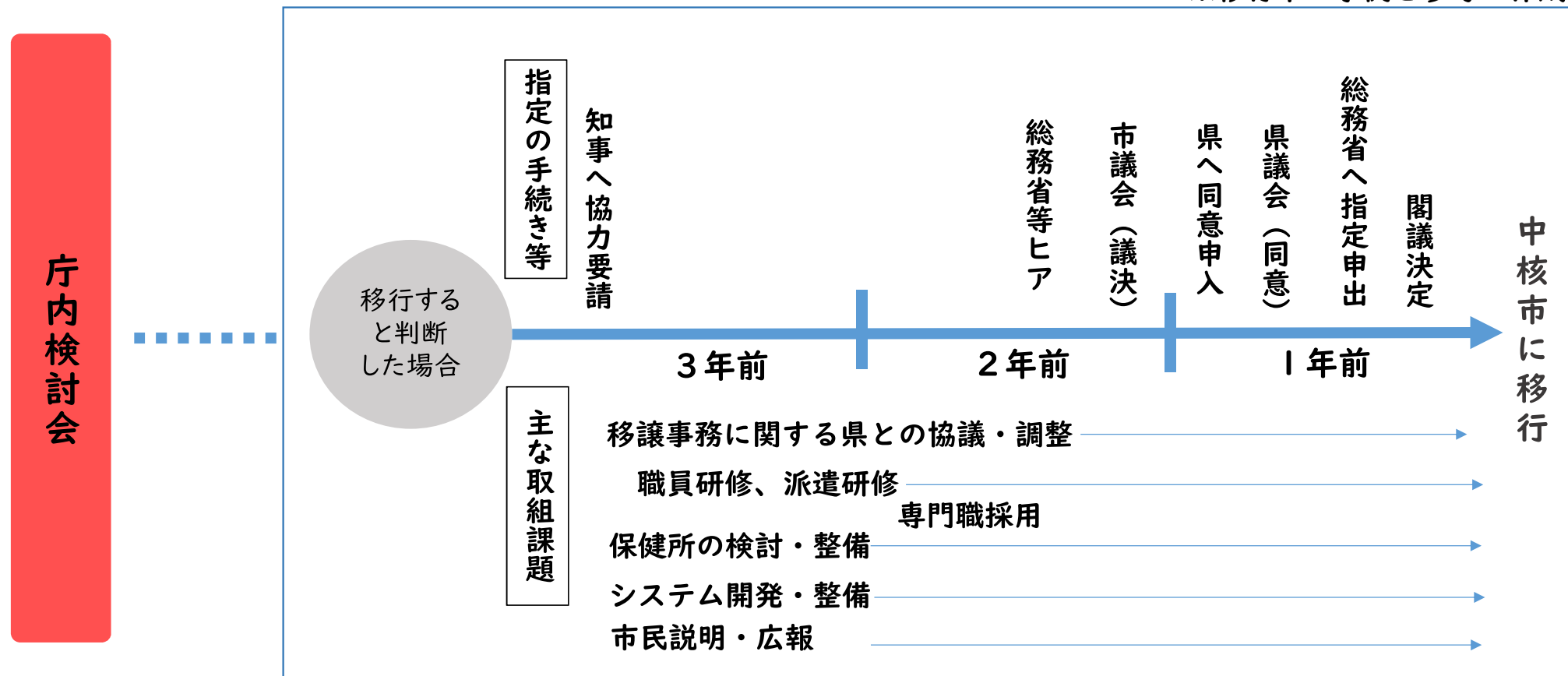
中核市とは

- ・地方分権を進めるための都市制度の1つ。
- ・政令指定都市に次ぐ人口規模の都市に都道府県の事務や権限の一部を移譲し、住民にかかわる事務はできる限り住民に身近な市で行うことを目的としている。

県の事務	○ 警察署の設置 ○ 指定区間の一級河川の管理など		指定都市 [人口50万人以上]
	○ 児童相談所の設置 ○ 国道・県道（指定区間外）の管理など		
	○ 保健所の設置 ○ 保育所、社会福祉施設(老人福祉施設、介護保険施設等)の設置許可など		中核市 [人口20万人以上]
	○ 環境保全・都市計画に関する事務など	施行時特例市	全国62市 九州では 久留米市、長崎市、佐世保市、大分市、宮崎市、鹿児島市、那覇市
	一般市	全国23市 佐賀市	※県庁所在地では 津市、徳島市、 佐賀市 が 中核市に移行していない。
	全国687市 県内では、9市 ●生活保護の決定・実施 ●公立保育園、小中学校の設置など		
			

中核市へ移行するまでの流れ

※移行市の事例を参考に作成



中核市へ移行した場合の5つ効果

- 1 行政サービスの効率化が図られる
- 2 きめ細かな行政サービスの提供
- 3 総合的な保健衛生サービスの提供
- 4 独自のまちづくりを展開
- 5 市全体の活性化

第2回庁内検討会で示された調査・研究事項

◎ 佐賀市の将来像

- ・ 移行に伴い移譲される事務や権限を活用することで、市民に対し、どのような将来像が提示できるのか

◎ 財政負担

- ・ 保健所の設置方法により財政負担や専門職の人材確保数が大きく変わってくるため、丁寧な検討が必要

○ 専門職等の人材確保・人材育成

- ・ 先行中核市では、移行の3～4年前から専門職を採用
- ・ 先行中核市では、準備段階から職員を県等へ派遣し育成
- ・ 移行後も一定期間は県から職員派遣を受けると同時に、人材交流や研修を実施

○ 保健所

- ・ 庁内だけでは業務のイメージ・想定が困難のため、県との意見交換や協議が必要
- ・ 設置方法ごとのメリット・デメリットの分析

目 次

- 1 振り返り
- 2 先行市 | 中核市で目指す都市像
- 3 佐賀市 | 中核市で目指す将来像
- 4 検討課題

甲府市 | 中核市で目指す都市像



未来創造都市を目指して

甲府市
KOFU CITY



(1) 健やかで心豊かに安心して暮らせるまち

本市に移譲される多くの事務を効果的、効率的に運用し、子どもから高齢者まで、誰もが住んでみたいと思える、「**健やかで心豊かに安心して暮らせるまち**」を目指します。

(2) 自然と調和した持続可能なまち

地域の実情を十分に踏まえた独自性・創造性のある効果的な施策を推進することで、これまで以上に、快適さを実感できる生活環境を創出し、誰もが住み続けたいと思える、「**自然と調和した持続可能なまち**」を目指します。

(3) 将来も発展を続けるまち

甲府圏域の中核都市として、**近隣自治体とより一層連携したまちづくりを推進**し、経済活動や観光事業をはじめ、幅広い分野において圏域全体の活性化に繋げるなど、これまで以上に圏域全体の発展に貢献することで、「**将来も発展を続けるまち**」を目指します。

寝屋川市 | 中核市で目指す都市像

権限移譲を「単純な権限の増加」ではなく「現在の市が有する権限との相乗効果を生み出すチャンス」と捉える。
中核市移行は将来へのまちづくりのスタートであるということから、

「命(いのち)」、「生活(くらし)」、「未来(みらい)」という3つの観点で、

行政サービスの向上と都市格の向上を図り、市民にいつまでも愛される【**命と笑顔が輝くまち**】を目指す。



松本市 | 中核市で目指す都市像



市民に最も身近な基礎自治体として、主体的なまちづくりの推進が図られることに加え、保健所設置等に伴い独自性のある健康福祉政策を展開することにより、先進的なまちづくりと市民サービスの更なる向上が期待されることから、中核市への移行を目指して取組みを進める。

(1) 地域ニーズをより反映した健康づくりの推進

医師をはじめ医療専門職が新たに加わることで、各種検診、各種国民健康保険の医療費や介護保険給付費などのデータ分析を総合的に行い、分析により明らかになるニーズや課題を踏まえたフレイルや疾病の予防を推進します。加えて、医療や介護事業者と連携を強めることで、**健康寿命の延伸**をさらに進めます。

※フレイル…加齢によって心と体の機能が低下し、介護になる手前の状態

(2) 新型コロナウイルス感染症等危機管理体制の強化

保健所を設置することで、市が検査や感染者の疫学調査を的確に実施し、感染への早期対応や感染防止に一層努めるとともに、ワクチン接種による感染対策を進めていきます。

また、近年、自然災害の増加が懸念される中、**市民の命を守る災害医療体制の体制強化**を図ります。

目 次

- 1 振り返り
- 2 先行市 | 中核市で目指す都市像
- 3 佐賀市 | 中核市で目指す将来像
- 4 検討課題

中核市で目指す将来像(案)

Well-being
×
SAGA city

別紙へ

目指す将来像(案)に対する各部意見

- 第2次佐賀市スポーツ推進計画でもスポーツを通じて健康寿命社会の実現を掲げており、文化・芸術にスポーツを並記し、“ココロ”と“カラダ”を紐づけする。
- 保健所を運営する場合は、しっかりとした人員配置、特に専門職の確保が必須である。
- 医師や保健師等の人材確保のためには、一定の給与水準を用意する必要がある。
- 中山間地に存在する温泉や森林、水辺などの自然環境を活かしたリトリートは、ほっとできる“居場所”の一つであると考えられるため、その活用を取り入れることができる。
- 昨今の物価高騰や気候変動の大きな変化も含めた判断が必要である。

目 次

- 1 振り返り
- 2 先行市 | 中核市で目指す都市像
- 3 佐賀市 | 中核市で目指す将来像
- 4 検討課題

検討課題

課題

内容



人材確保

- ・一般事務職員の確保が困難
- ・公衆衛生医師の確保が困難
- ・獣医師、薬剤師の確保が困難
- ・臨床検査技師等の確保が困難



財源の確保

- ・単独設置(新設) 水戸市 21億円
- ・単独設置(改修・増築) 甲府市 5億円
- ・共同設置 松江市 整備費用なし



保健所

物理的な場所の確保 (執務面積等)

- ・単独設置(新設)・・・土地の新規取得
- ・単独設置(既存)・・・既存施設を保健所に転用
- ・共同設置・・・佐賀県中部保健所を共同運営

中核市で目指す将来像（案）

R5年4月

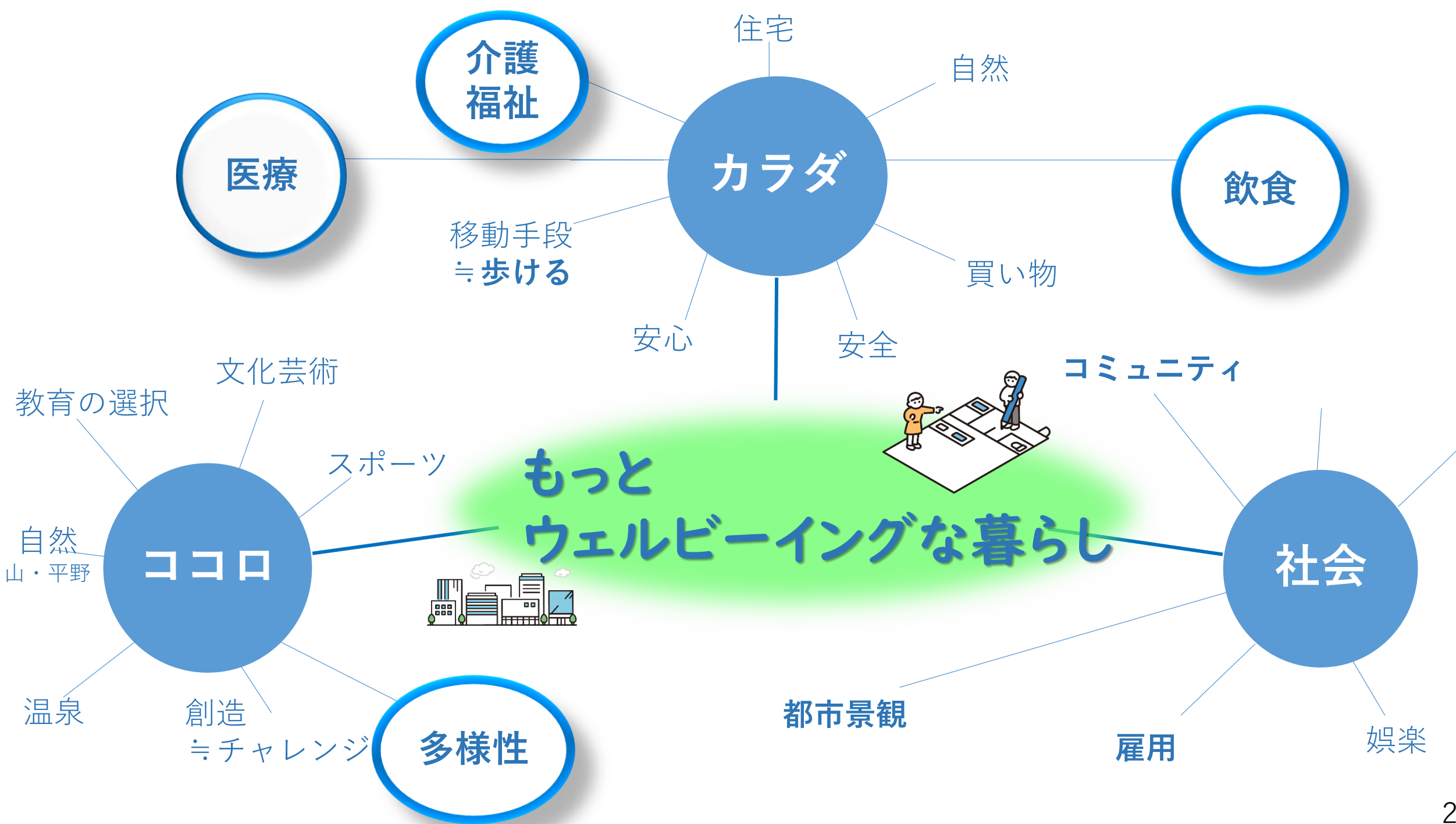
Well-being × SAGA city

平成17年、平成19年度の合併を経て、佐賀市は「山から海まで」を有する自然豊かな20万人以上を抱える県都として発展してきました。

しかし、急速に進む人口減少、少子・高齢化。
テクノロジーの劇的な進化や新型コロナウイルスがもたらした社会システムの転換など変化が目まぐるしい社会のなかで、未来を正しく予測することは難しくなりました。

だからこそ、わたしたちは、ひとりひとりの“幸せ”を大切にしたい。
カラダとココロ、そして社会とのつながり大事にし、
自分らしく輝きつづけられるように、活躍できるステージとほっとできる居場所をつくりたい。
佐賀市民ひとりひとりのエネルギーこそが、明日の佐賀市を築き続けると信じています。

佐賀市は、『健幸』をまんやかに、
‘もっとウェルビーイングな暮らし’づくりを目指します。



『健幸』をまんやかに、活躍できる“ステージ”とほっとできる“居場所”がある街

